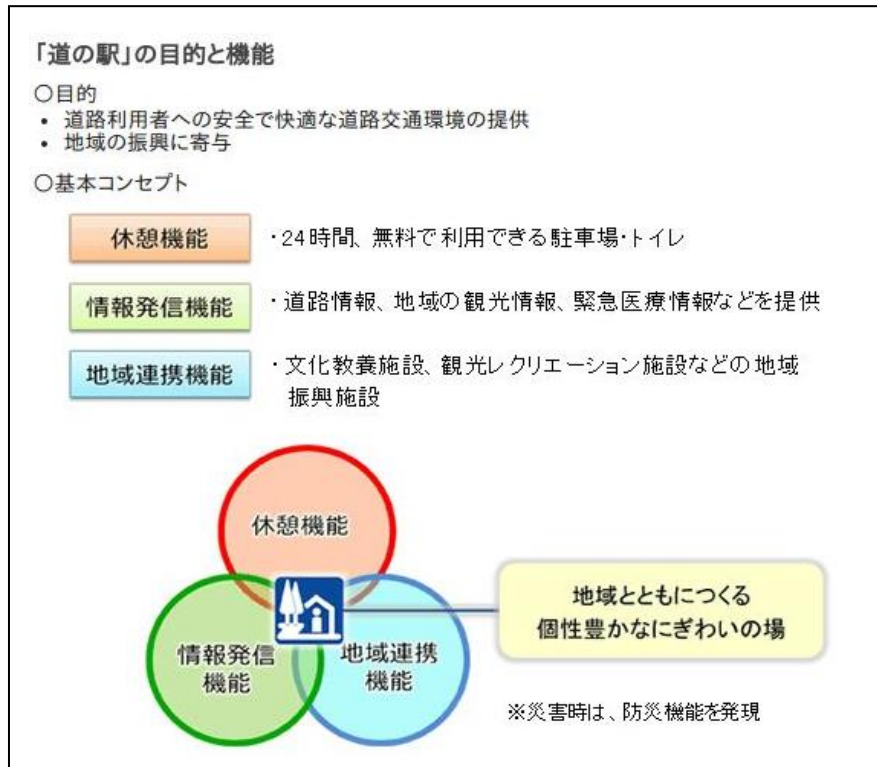


『阿見町道の駅』これまでの整備計画に至る経過

1. 道の駅とは（国土交通省 HP より）



2. 阿見町道の駅の位置づけ

- ・道路管理者である県と共に整備する一体型道の駅
- ・道路利用者の休憩機能として県が駐車場等の整備を一部負担（県施工）
- ・地域振興機能として物販や飲食施設等は阿見町が整備

3. 検討委員会等（町民代表・有識者・関係機関など）

①道の駅準備検討委員会（H23）

- ・委員：一般公募、JA、商工会、茨城大学（学生）、町議 他
- ・主な検討内容：基本構想（案）の策定

②道の駅整備推進会議（H24）

- ・委員：茨城大学（准教授）、町議、JA、商工会、町内各団体、県関係 他
- ・主な検討内容：基本構想の策定
- ・会としての主な提言：
効果的な事業手法を選択し、経営の見通しを立て実施すること（費用対効果・民間活力・採算性）、経営上の観点から総合的に運営できる体制が望ましい。

③道の駅運営検討委員会（H28～29）

- ・委員：地元町民、茨城大学（准教授）、JA、商工会、町内各団体、地元企業 他
- ・主な検討内容：運営体制や施設整備に係る検討

4. 場所について

①基本構想（H24）

- ・交通量の多い道路沿いであること、一定規模の用地が見込めること、圏央道阿見東 IC から霞ヶ浦湖岸へつながる路線、または国道125号線・国道125号線バイパスの沿線から候補地を検討する。今後、事業性、実現性などの観点から、立地場所を選定することとなる。
- ・大室地区、追原地区、南平台・島津地区、吉原地区

②基本計画（H26）

- ・道路休憩施設の需要（交通量）から国道125号バイパス
- ・民間企業16社からヒアリングした結果、**「近隣居住者の利用を取り込める地区が優位」「普段使い」**
- ・アウトレットから**霞ヶ浦湖岸への誘導・周遊の促進**
⇒霞ヶ浦湖岸の活性化…サイクリングロード、予科練平和記念館
- ・南平台を含めた君島、舟島地区の日常生活の利便性向上と阿見町全体の均衡あるまちづくり
- ・大室地区、追原地区、南平台・島津地区、吉原地区の4候補地から**追原地区**に決定

5. 運営体制について

- ・整備推進会議の提言（H24）…経営上の観点から総合的に運営できる体制
- ・基本構想（H24）…自立した運営（採算）の見通し
- ・基本計画（H26）…施設全体をマネジメントできる運営主体
…公設民営＝指定管理者制度



一貫して『経営』の視点が求められていた

- ・選定委員会（H28）⇒ 公募により7者（団体）の応募
(株) ファーマーズ・フォレストが選ばれる